支部だより No.136

日本山岳会京都・滋賀支部　2019年9月15日

今西錦司レリーフの集いと十二支会終了報告

林　一夫

今西先生が1960年（庚子）に創設された十二支会が紀伊・子ノ泊山（参加6名）で始まり、毎年1月に干支にちなんだ名前の山を登り続けてきたが2019年（己亥）1月の第60回近江・猪背山（参加79名；会員56，ビジター23）で大団円を迎え終了した。

創設時から会員の還暦や古稀～白寿といった賀寿を祝ってきたので十干十二支の一巡りとなる60という回で区切りをつけて解散としようと話し合われてきた。京滋支部からは卒寿の斎藤顧問をはじめ6名が京都近辺、5名が山口から参加していた。

昨年末亡くなられた横田明男元京都支部長は十二支会会長兼世話人を務められていたが10年前、会長専任となり私がその後の世話人（事務局）を引き継いで諸先輩のお世話や例会開催の裏方を務めることとなった。1988年山口・竜王山で十二支会のお世話をしてから入会以降、おかげで全国各地（北は山形県～南は大分県）の会員と親しくさせてもらい、歳を重ね高齢となっていく過程での山との向き合い方も学ばせて頂いた。

最終回60回時点の会員数は70名、平均年齢は76歳と高齢化していたがこの歳までよう頑張ったと今西先生からお褒め？を頂けるのではなかろうか。

この十二支会の大団円を今西先生の墓前に報告したいとも考えていたので今回のレリーフの集いに参加した。

7:17徳山駅（山口県）発の新幹線で9:34京都着。10:00には地下鉄北山駅着。余談ながらこの経路の車両はいずれも私の現役時の勤務先で製造したものだった。

2018年9月、京都を襲った台風21号による倒木や崩落被害で不通の直谷林道を回避し芹生峠から西の北山荘へ向かうルートをとることとなり10:30植物園北門から笠谷車、大槻車、中川車に8人が分乗、外国人観光客で賑わう貴船を通過して11:15芹生峠着。

今夜の食材他をザック等に入れ約1時間、快晴で新緑の美しい北山を中川Lの案内で12:30北山荘着。ここは2010年のレリーフを守る会（新宮山彦ぐるーぷの玉岡憲明さんの談話あり）以来9年ぶりの訪問であった。谷筋下流の両岸は風倒木多数で以前よりずいぶん明るくなっていた。小屋の周辺にはクリンソウ、山シャクヤクが咲いており春本番の様相である。

昼食と休憩後13:00頃から小屋内の雑巾がけとレリーフ周辺の整備班に分かれ私は小屋内を担当。レリーフ周辺では台風による散乱物の除去や左側にステップをつくり直し、上部にはレリーフへの雨水流直撃を回避するための雨水路を作った。

14:00過ぎレリーフに缶ビールと花のお供えをして松下支部長の挨拶。続いて13年前にこの地で散骨された故朝倉英子会員を偲び一等三角点標石（今西先生が1968年の500山登頂記念に山の仲間から頂かれたレプリカ）前での焼香。今西家の庭から2005年に移設されたこの標石はすっかり北山になじんでおり、今回は大槻さんの言い出しっぺで周囲4か所に保護石と見なされるような石も置いた。

14:30一連の整備作業と行事を終えこの後、17:00までは各自自由行動。大倉、笠谷両氏はレリーフ付近の残りの倒木を細断、撤去継続され大奮闘された。大変お疲れ様でした。福田さんは下流でアマゴ釣り。小屋周辺にいた残りのメンバーはしばらくの談笑後、夕餉の仕度にとりかかり野菜やきのこを沢の水で洗って切った。

17:00沢で冷やした缶ビールの乾杯で始まり小屋の囲炉裏に板を敷き、持ち込んだ2組のガスコンロと鍋で常夜鍋。

豚肉は300g/人、ホーレンソウ、水菜、エノキや椎茸などをあふれるほど鍋に入れ、多めの大根おろしにポン酢を足した器に浸けて食べた。・・・美味い！毎晩でも食べられるので常夜鍋というとのこと。野菜に加え浅原さん持参の伊勢海老数匹も鍋に収まりいい味となった。そして山口の酒・獺祭1升も程なく主に4人によって飲み干された。歓談は続いたが北山荘に来るたび、お世話していただいていた田中節子さんがもうおられないというのは本当に寂しい。

歓談で一等三角点レプリカに話が及んだ時、大槻さんが「今西家の一等三角点」というコピー（筆者 四手井靖彦：元京都支部会員／今西錦司先生の甥）を配布。

そして今西錦司レリーフの上のレプリカの製作～今西家へ設置～長男・今西武奈太郎氏による北山移設の経緯をユーモアを交えて紹介された。その他、京都三奇人のエピソード、今夜北山荘にいない支部会員の話題などで盛り上がり時間はもう 23:00 前。ここでお開き、各自シュラフにもぐりこんだ。

翌朝は 6:00 起床。外は今日も快晴。昨夜の常夜鍋にパック入りのごはんを足した雑炊で朝食とし小屋の掃除を終え 7:35 北山荘を出発。昨日の往路を引き返して 8:35 芹生峠に帰着。来年はキムチ鍋でまた集まろうという話がまとまり解散となった。

今夜からネパールガイド行のある浅原さん他滋賀組 3 名は貴船川を下り、京都組 5 名は北へ灰屋川に沿って下るルートをとった。私は中川さんの車に同乗させて頂き桂川から周山街道を京都市内へ戻り千本通りの上品蓮臺寺へ。中川さんの案内で奥まったところに並ぶ今西家の墓から今西先生ご夫妻の墓を見つけてお参り、十二支会 60 回終了の報告をすませた。これで京都での予定行動も無事完了、京都駅で福田さん、中川さんにお別れし帰途に就いた。

中川 L はじめ皆さんお世話になりました。

実施日：2019 年 5 月 11 日（土）～ 12 日（日）晴れ
参加者：中川　寛（L）、松下征文、大槻雅弘、
大倉寛治郎、福田文夫、笠谷　茂、浅原明男、
林　一夫

北山荘での語らい

平日例会山行

比良　釈迦岳 1060.1m

田中昌二郎

釈迦岳は若年のころより湖岸近くの南小松集落から度々仰ぎ見ていた。また、支部とも関係深い日本画家奥村厚一画伯の「釈迦岳」の力強い姿にも惹かれていたが、一気にせり上がるその急峻な山容から少し臆するところがあり、長年登山に結びつかなかった。

それで今回は、急峻と聞くワンゲルルートはとらず、緩やかなカラ岳経由のルートを目指す。

JR 北小松駅に午前 8 時 30 分に集合、下山地である楊梅の滝駐車場に車 1 台を駐車してイン谷口へ回り、旧比良登山リフト乗り場に駐車し歩き始める（9:10）。

神爾の滝分岐を過ぎて樹林の中の緩やかな道を登る。残置された旧リフト支柱のコンクリート基礎台からは、琵琶湖、堂満岳、蓬莱山が一望のもとに。絶好の登山日和だ。程なく釈迦ヶ岳直登ルートとの分岐に着く（10:40）。今回はカラ岳へのトラバースルートを行く。杉林の中の広く緩やかな登山道を登ると、なんなくカラ岳との鞍部に着いてしまった（11:15）。頑張りもなく大汗もかかずに実にいいルートだ。直ちにカラ岳 1030m 往復。頂上手前では、満開のシャクナゲの花の出迎えを受け大感激（11:30）。鞍部に戻って広くて緩やかな稜線のブナ林を行くと、今まで気後れしていた念願の頂上にあっけなく立っていた（11:50）。釈迦岳 1060.1m、三等三角点　点名　北比良である。ザックを積んでカメラを乗せセルフタイマーで記念撮影し昼食。天気は上々、握り飯も美味い。

これからは比良をこよなく愛された中井一郎氏らの命名によるという北比良スカイラインの縦走だ。同氏の著書、『比良－山の自然譜－』によると、「特に釈迦－ヤケオの間などは、北比良スカイラインと呼びたいくらい」とある。膳所高校、県山岳連盟などが協力して作られた道とのことで、先人の苦労と思い入れを感じる。フジハゲのピークから、近江舞子の内湖、沖島、琵琶湖大橋から南湖までの絶景を大いに楽しむ。シロヤシオ、ベニドウダン、ヤマツツジも彩りを添えて、北を望むと蛇谷ヶ峰は勿論、百里ヶ岳から若狭の山々が続き仙界に遊ぶがごとくである。

ヤケオ山（14:00）から標高点・705 との鞍部まで標高差約 300m の急な下りを過ぎ、ヤオ山 700m から涼峠へのまたまた急な下りにかかると、かなり足・膝にこたえてくるが程なく楊梅滝の滝見の東屋に着く。やれやれと一休みの後、楊梅の滝駐車場へ下りつく（15:45）。朝置いておいた車で旧リフト乗り場駐車場へ

回って釈迦ヶ岳周回コースの一日を終えた。

念願を果たしたうえに絶景を堪能した納得の一日だった。

実施日：2019 年 5 月 16 日（木）
参加者：田中昌二郎（L）、上田典子（SL）、（友の会）
中塚智子

釈迦岳頂上にて

丹波の山々
長老ケ岳（917m）

松下征文

曇日で風の強い日となりました。宅間さんと二人で仏主へ向かう。向かう途中長老さんの姿を写す目的で下乙見へ立ち寄り、家の前にいた地元の女性に「あれが長老さんですかね？」と尋ねたらもっと右奥の方と言う？集合時間に間に合わないので、帰りにもう一度来ることにして水車小屋駐車場に向かう。古谷さんと落ち合うが少し待たせてしまった。

靴を履き替えて水谷川の橋を渡り、昨年の台風で沢沿いの舗装道路が無くなりようやく復旧工事が始まった。工事職人さんに「おはようございます」と挨拶しながら二股へむかう。

七色の木と森林公園への二股で右の森林公園へ向かう。つづら折りの舗装道路を登って行く。新緑の美しさと、眼下に見える仏主集落のたたずまいに気持ちが落ちつき癒される。

二股分岐から森林公園まで約 30 分、ここで少し休む。それにしても風が強すぎる。曇って無ければもっと気持ち良いだろう。

ここからが少し登り坂となる。ログハウスの休憩所を過ぎてもうひと登りで平坦な頂上稜線に出る。下山中のご夫婦と挨拶する。山頂から強風と寒さでそそくさと降りてきたという。

山頂直下の施設管理棟に出て、山頂への最後の登りとなる。

山頂では 3 人グループの方が東屋の裏で風を避けて昼食中だ。自分たち 3 人も昼食とする。

晴れていれば山頂からの展望が素晴らしいのだが、今日は曇りで残念、強風と低温で寒い、約 30 分で山頂を後にする。

下山は施設管理のために作られた舗装道路を下る。昨年の台風で 5 ケ所が舗装の下をえぐられている。土石流の跡も残っている。舗装道路の下りはふくらはぎを痛める。樹木が至る所で根こそぎ倒れている。二股に降りてきて七色の木を観察して水車小屋駐車場へ戻る。

水車小屋駐車場から森林公園経由山頂迄約 2 時間 30 分。舗装道路が復旧するまでは、このルートの往復をお勧めします。下りは約 1 時間 45 分です。

実施日：2019 年 5 月 18 日（土）
参加者：松下征文、（友の会）宅間　仁、古谷英二

第 3 回 テント泊登山の会
荒島岳　△ 1,523.5m

古谷英二

この日のために 3 月から揃え始めたテント泊装備、自宅の部屋にテントを立てる練習をすること 2 回。待ちに待ったテント泊登山の例会である。福井県は大野市に位置する「荒島岳」、別名「大野富士」、日本 100 名山の一つである。

初日 25 日（土）は麓の駐車場でテント泊の予定。よって、集合は湖西道路　和邇インター道の駅「妹子の郷」に 13:30、湖西を北上し、敦賀から福井インターまで北陸道、そこからは一路国道 158 号をひた走る。ただ、直接駐車場を目指すとあまりにも早いため、途中、朝倉家遺跡を見学することにし、戦国時代に思いを馳せた。

荒島岳には、北からの勝原（かどはら）コース、西からの中出（なかんで）コース、南からの佐開（そびらき）コースなどのポピュラーな登山コースがある。勝原コースはスキー場の急斜面を登る単調なコースなので回避し、距離は少し長くなるが、なだらかな広葉樹林の尾根を登り小荒島岳を越えて行く中出コースをとる。

さて、荒島岳中出（なかんで）コースの広い駐車場に 17 時過ぎに到着した。駐車していた 2 台の車も程なく下山されて、

貸し切り状態のキャンプ場と化した。綺麗なトイレと、なんといっても冷たくておいしい湧水という環境は抜群である。早速各自のテントを設営して部屋に入ると、“自分の城”感が半端なく、これがテント泊の醍醐味なのだろうと痛感する。

その後、宴会へと突入、各自持ち寄った食料とアルコールで気分は最高潮、日も落ち最高の雰囲気である。明日は6時登山開始の予定ということで、どうだろう、20時頃には各自のテントへ。

翌日、5時頃には小鳥の合唱で目覚め、各自朝食を摂り、テントを片付け、もうちょっと上の登山口まで車で向かう。さて、登山開始、さすがに100名山である。たくさんの方が我々を抜いていく。意外と若い方が多いのに驚いた。

ブナの美林を抜けて立った小荒島岳（標高1,186m）の頂からは、辺りを圧してそびえる荒島岳の勇姿が望めた。シャクナゲ平で勝原からの登山道と合流する。この頃までは順調だったが、そこからの「もちが壁」にやられた。延々と続くガレ場の急登、標高差としては540mだがここが堪えた。しかし、遠くに雪化粧の白山連峰が見えてくると疲れもどこかに吹っ飛んだ。

10:30に荒島岳の山頂に到着する。順調である。360度展望が利き、たくさんの山の名称を教えていただいた。昼食を済ませ11時過ぎには下山を始める。

慎重に「もちが壁」を下山するところまではよかったが、その後、フィジカルもメンタルもずたずたとなり、ほぼ平坦なところで2回転倒した。それも派手な転倒である（かすり傷ですが…）。それにしてもメンバーのお二人の強靭なこと、経験の差を痛感する。

その後無事に車へとたどり着き帰路に着きました。

うだるような暑さのこの2日間、最高気温はなんと35度というからもう真夏である。また、まったく風がないという気候もあって、たっぷりと持って行った2Lの水もほぼ飲みほした。

私にとっては今までの最高標高である荒島岳、しかも初テント泊と思い出に残る山行となりました。ありがとうございました。

登山アプリによる山行記録
活動時間：6時間30分、移動距離：10.7km、高低差：1,139m
累積標高：（登り／下り）1,378m／1,369m、消費カロリー：2,732kal

実施日：2019年5月25日（土）～26日（日）
参加者：田中昌二郎（CL）、上田典子（SL）、（友の会）
古谷英二

荒島岳をバックに

「ダンダ坊整備」

真名子栄一

大津市志賀町南比良の比良川沿い、標高330mの山中に「ダンダ坊」と呼ばれる比良山中最大で平安時代の寺院遺跡がある。（東西150m：南北550m）

築城者比叡山、築城年平安期とされるも詳細不明、比叡山中に設けられた山岳寺院が城塞化したもので、元亀年間に繰り広げられた抗争で延暦寺と共に破壊された比良山中最大の寺院遺構。歴史的経緯は不明とされながらも天台修行の場として伽藍が整備されたと思われている。

現在は歩道と崩れかけた石垣による建物跡や基礎石の痕跡はあるものの全体が大きな樹木に覆われている。

数十年前大津市による遊歩道が整備されたが、現在は杭やロープは朽ちている。

例年春と秋に我々JAC京都滋賀支部及びレスキュー比良の有志で、公園化されている遺跡の遊歩道整備や昨年の台風による倒木処理をして遊歩道回復作業を行いました。

6月2日（日）新緑の晴天の朝を迎え早朝よりレスキュー管理事務所前で、いつもの様に登山者に対し登山届けと安全登山の啓発活動を行い乍ら、情報交換を行い開始予定の09:00からはチェンソー2機を使用して、歩道に倒れ込んだ電柱大のクヌギやナラその他を切断排除に併せ事務所周辺の草刈りや登山道アプローチへ覆い被さる樹木の枝打ちを行いました。

午前中で一定の成果をあげ、昼は事務所前のテラスで焼き肉しながら歓談して楽しい日を過ごす事ができました。皆様ありがとうございました。

実施日：2019年6月2日（日）

参加者：松下征文、中川　寛、土井文雄、前川雅彦、
真名子栄一、（友の会）大窪公三、中塚智子、
（レスキュー比良）堀内久種

山歩会例会

笹間ヶ岳

山口基継

このところの天候は不順であり5月例会の亀岡三郎ヶ岳も雨で中止となった。本日は久し振りの快晴、参加者全員の気分も晴れやかでJR石山駅に10名が時間通り9:15集合、9:25発、帝産湖南バスでアルプス登山口へ。

本日の〈L〉宇都宮さんの本拠地であり、先日下見までしていただき、ルート説明と気付かれた諸点についての説明があり、全員でストレッチして出発する(10:00)。天神川に沿って緩やかに登って富川道分岐10:25迄木蔭の道を語らいながら気分よく歩いた。通いなれた道の感覚が甦ってくる。

山歩会の記録を見ると2017.10.24. 太神山、矢筈ヶ岳コースを6名で登り、2018.3.27. 堂山を15名で登っており、何時も体調不良が多く欠席の多い私自身が、もれなく参加しており、それに続く今年の笹間ヶ岳である。それぞれの山の位置関係も3年連続して歩くと判ってくる。堂山の山歩会記録も書かせていただき又々の今回のご指名である。ご縁というものだろうとお引き受けした次第である。

分岐地点から登りとなる。木蔭ではあるが風が殆どなく気温は30度ぐらいにもなっているだろう。兎も角暑い。矢筈ヶ岳分岐迄標高差約180M、距離約7～800M登りが続くと可成り厳しく、手前で水分補給の休憩を10分取って頂き助かった。

分岐（11:00）を過ぎるとすぐに台地に出たがこのあたりを御仏河原というのであろう。少し歩くと眺望が利くところがあり本日初めての景色に見入る。やや右手に堂山の特徴のある山肌が見えるが全体的には春霞の中に包み込まれたような感じである。宇都宮リーダーから後で八畳岩からの眺望をお楽しみくださいとの話があった。そのまま進むと左手に可成り大きな池があり、ハイカー数人がいるが本日最初の出会いであった。先頭を歩いている我々は気付かなかったが、池には30cmぐらいもある魚数匹を森さんや中川さんたちが見られたとの報告があった（11:20)。その後小さな上り下りを繰り返しながら頂上近くの広場に出た。時刻は12:15にもなっており頂上は場所も狭く、ここで食事をとることに決めて各々木蔭で風通しの良いところを探して昼食を摂った。

出発は12:45となった。食事後広場の奥に出かけたところ、周りの樹々は藤原京創都1300年を記念して植樹されたものと分かったのだが、694年に飛鳥から移され持統、文武、元明天皇の3代の都であり大和三山にかこまれた現在の橿原市に唐を模して造られた都であり、当時の橿原市長名の記念碑があったが、25年近く前のものであり、周りも草葉が生い茂り訪れる人もなく記念碑などの管理の難しさを思い知らされる(12:50)。そこから僅かで笹間ヶ岳頂上である。

リーダーお薦めの八畳岩には2mほどの梯子が架けられているのだが、1段目と中途の一段が折れそうで慎重に上り下りを強いられた。素晴らしい眺望が待ち受けてくれて、これまでの苦労を忘れて見惚れた。何処から見ても趣のある比叡山とそれに続く比良連峰、それとゆったりと横たわる琵琶湖は形容の仕様がないほどの美しさである。八畳岩を回り込んだ下に山のご祭神の祠がありそこで記念写真を撮り、下りに取りかかった（13:15)。

リーダーからは下りは滑りやすい箇所があり慎重に歩くように注意があり、SL中川さんよりバスの時間に拘ることなく無理せず怪我をすることなく歩くように指示が出された。途中1回の休憩をとったが予定通りバス停近くの新茂智神社に着く（14:20)。実に静かで素朴で質素なただ住まいである。帰宅して調べると761年に勅をもって創建されたもので稲依別命、少彦名命などを祭神としているとあった。バスの時間まで休ませていただき15:00リーダー宇都宮さんのお見送りを受けて笹間ヶ岳H433Mの登山を終えた。久しぶりに山歩会の皆様と楽しく過ごした一日でした。

実施日：2019年6月25日（火）
参加者：宇都宮道人（L)、中川　寛（SL)、遠藤将一、
西田　均、西田和恵、能田直子、森　栄司、
山口基継、（友の会）川寄紀久子、馬場信枝

笹間ヶ岳頂上のお社にて

健幸登山教室１　比良げんき村

松下征文

健幸登山教室という名称で初心者、中級者のために登山教室を計画しました。出来るだけ50歳以下の若い方に参加していただきたいと思っています。

今回の参加者は会員４名と友の会２名、一般参加者４名、講師は松下征文、村上　正、土井文雄の会員３名です。

場所は北小松の比良げんき村の会議室で午前中の講習を行いました。

「講座　登山　基礎」という（公社）日本山岳ガイド協会が出版している本を参加者に配布して教科書としました。

山の本を読むというきっかけになればと思います。

午後は雌滝から涼峠への周回コースで、地形図を読みながら歩き、スマホGPSとの使い分けを講習しました。

参加者の覚えたいという真剣な気持ちが伝わってきました。

一回の講習で読図を覚えるのは困難でしょう。これをきっかけに地形図になじんでもらえればよいと思います。そして計画ルートの概念図が作れたら道迷いは防げるでしょう。間違えてもその間違いにすぐ気が付くと思います。

次回は沢登りの入門講習ですが、今日参加された受講生が参加を望んでいます。今年は四回の予定です。無雪期の基本をしっかり伝えていきたいと考えています。

実施日：2019年６月９日（日）

参加者：松下征文、村上　正、真名子栄一、土井文雄、
（友の会）大窪公三、宅間　仁
（一般）富田和代、尾形梨花、野崎貴子、
古賀みどり

飯盛山　巨木と展望の山

山田和男

７月13日、梅雨空の中、四条大宮を出発する。途中五条で伊原氏を拾い車中は雨の話で盛り上がる。名神、中央道と走るが白い雲が山裾まで垂れ下がり、緑の木々が延々と続く。中央、八ヶ岳、南アルプスは全く分からず、諏訪湖を通り過ぎ、甲斐駒、鳳凰三山の姿を見たかったが道路上の地名で想像するだけだ。長坂ICの出口混雑の情報が有ったので須玉ICでおりた。以前雨で山が見えず北杜市の清春芸術村でスケッチをしていた時、偶然会った当時の北杜市長が「2日続きで雨に会うのはラッキー、滅多に無いことですよ。ここは日本一日照時間が長いところですから。」と言われたことが有った。しかし今回もまた展望は全くない。巨木の観察に集中する。

須玉町江草、獅子吼城址近くの根古屋神社の大ケヤキ、神社に向かい左が田木（幹回り11M）、右が畑木（12M）二本並んで10Mを超えるのは珍しい。

須玉町比志神社の大杉（6.9M）、車を止め田んぼの奥にある鳥居へ行く途中、キジが飛び立ち、低空飛行でまた田んぼに降り立つのが見えた。近くにエゾエノキがあるはずだが登り口に駐車スペースを探すも無く、たいした木でないとリーダーの判断でパス。

須玉町比志、日影のトチ（8.55M）集落からハッカの匂いがするところを通り河原に降りる途中にあり、大きな枝が折れたトチがあった。折れた枝は主幹と同じくらい太く周辺に散らばっていた。

本日はここまでとして明日の山歩きの為、北上し清里近くの平沢の「しんたく山荘」へ。リーダーはどこで探したのか？見事な宿探し。ナビで住所地へ行くと廃墟のような大きな建物が２棟、一つは体育館、もう一つは？　雨はだんだんと強くなっている。住所にはこの建物だけ。表に廻って見ると電気がついており「高見澤」「しんたく山荘」の表札が上がっている。中に入ってみると大きな剥製が数匹、クマ、タヌキ等の地元の動物らしきものの中にトラまでいる。奥から返事がして気のよさそうな親父が出てきた。宿は大きく体育館、サッカー場、柔道場まである。後の様子は書ききれないのでご想像に任せます。あと一言食事はまあ頑張っていました。100席近くある食堂に我々６人がいる。もう一言、風呂上りにビールをと思い自販機の前に行くと親父さん「ビール飲むんですか？買ってきますよ。」と。夕食前にわかり良かった。

14日昨夜来の雨は止まず、朝食後平沢峠へ行く。山は白くガスの中である。一先ず駐車場のトイレへ行き、ニッコウキスゲが咲くシシ岩周辺を歩き、飯盛山は展望が目的の山なので、この場を後にし、また北杜市方面へ行く。

津金、海岸寺のスギ（5.75M）、山の中に立派な臨済宗の寺で「この寺は観光のための解放は致しておりません」と立札に記されていた。

高根町の伊勢大神社のケヤキ（11.5M）、損傷を受けているが樹勢は悪くなかった。熱那神社のサクラ（5.7M）、長坂、八幡神社のケヤキ（5.2M）は道路際に

あるので見ただけでパスする。

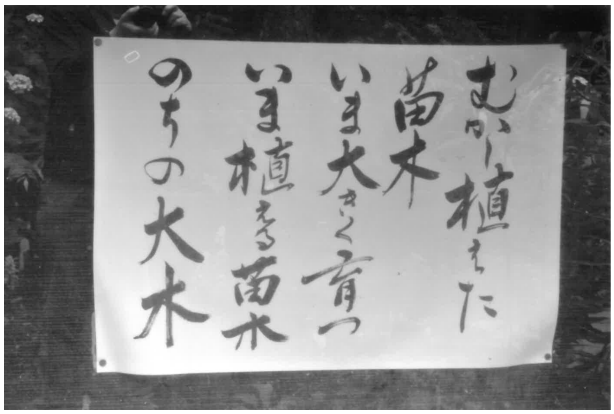
長坂、穂見諏訪神社のケヤキ（6.3M）、社前の池に美しく睡蓮が咲いていた。社務所通用口の上にカブトムシが居たのが印象に残った。ここから長坂IC行く途中道端をキジが歩いていた。カメラを出すも窓を開けるのが遅く姿は遠く草の陰に消えた。ICより松本を超え梓川スマートICでおり鹿教湯温泉へ、少し早いが宿に入りゆっくりと温泉に浸った。

15日雨は止んでいるが雲は立ち込めている。上田方面へ青木村、大法寺のカヤ（10.7M）1508年植樹と記録が残っている。三重塔は、見返りの塔と言われ国宝である。

上田市諏訪神社のケヤキは数本あるが主幹が失われ背が低い。神明宮のケヤキは表土が流出し根が露出している。坂城ICから長野ICを経て白馬、小谷から糸魚川ICで北陸道を走った。京都大原で青空が我々を迎えてくれた。

巨木の観察をしていると山村、里山の文化を感じることができるが、利用されず捨てられた田畑、家屋。バブル時の乱開発の痕、高齢化によるものか荒廃がそこここにあり淋しさを思うのは私だけであろうか。

実施日：2019年7月13日（土）～15日（月）
参加者：山村孝夫（CL）、柏木俊二、伊原哲士、
山田和男
（会員外）野間勝巳、内村百合子



大法寺の貼紙

大法寺のカヤ

奥の深谷沢登り講習会山行
（沢でのロープワークとクライミング）

大窪公三

今から1年前の7月22日（日）、奥の深谷で沢登り中に他グループによる滑落事故現場に遭遇しました。去年はこのような事故現場に遭遇した為、最後まで沢を進む事が出来ませんでした。

あれから一年が経ち、また奥の深谷へ行く日がやって来ました。今回はJAC沢登り講習会山行です。

午前8時半、坊村の駐車場にメンバーが全員そろった所で出発です。今回は牛コバの少し手前から入渓しました。ここで松下支部長としばしお別れです。少し体調がすぐれないという事なので、僕達の入渓を見届けてから車へ戻られました。

この日は猛暑日でもなく曇り空なので、沢に浸かると水は結構冷たかったです。2～3日前迄の雨の影響で沢の水量は多く、岩の表面はヌルヌルしていてスリップしないように注意しながら歩きました。

落差のある滝では、ロープで確保したり、フィックスを張ったりしながら安全第一で進みました。

僕は、ラバーソールの沢靴を履いていたので、ヌルヌルした岩との相性は悪く4段40M滝をトップで登った時は、かなり慎重に登りました。

フェルトシューズの人は、あまり滑る事はなかったみたいです。

この滝をもう少し進むと去年の事故現場の滝に到着です。今回みたいに水量が多いと滝壺から負傷者を安全な場所に運ぶのは無理だろうなと思いました。

この後に続く小滝は問題なく登れましたが、落差のある水流の強い滝が続くことから、安全を考慮して高巻をしました。谷で高巻をするという事は、登り返す斜面はもちろん、全ての場所でスリップや滑落をしない様に注意しなければなりません。ここも、ロープで確保しながら進み、最後は15M程の斜面を懸垂下降で下りました。

斜面を降りた先に、今回最大の落差8mの滝があり、その下には大きな釜がありました。水流も強く、登るか？止めるか？メンバーで相談した結果、とりあえず僕が登る事にしました。まず釜を泳いで滝の左岸にたどり着き、登れそうな気がしたので行ける所まで行く事にしました。

岩はヌメリも無く沢靴のグリップもよく効いたので、最後まで登りきれるかと思ったのですが、あと2～3mというところでヌメリが酷くなり手も足もでず。無理をせず慎重にクライムダウンしました。

ここまで、高巻を4回程しており、この後も高巻が

何度も続くと下山が遅くなるというリーダーの判断の元、下山する事にしました。

谷底から登山道へ戻るため、尾根を直登＆トラバースしながら登りました。足場の悪いこの急斜面の登り返しは大変でした。バイルを持って来ていれば安心して登れたと思います。

登山道へ復帰後は、「今日は高巻ばっかりで結局ちょっとしか滝を登ってないな」「次はどこの沢へ行こう」等々、楽しくお喋りしながら林道を下り、奥の深谷を後にしました。

今日は高巻が多かったので、沢装備のロープやバイル、的確なロープワークや判断力等々の重要性が身に染みる山行でした。

リーダー始め皆さま、ご指導ありがとうございました。お疲れ様でした。

山行タイム・明王院 AM8:40 → 入渓 AM9:40 → 4 段 40m 滝 AM11:30 →斜 8m 滝（撤収地点）PM13:15 →登山道復帰 PM13:55 →牛コバ PM14:19 →明王院 PM14:59
実施日：2019 年 7 月 21 日（日）
参加者：村上　正（CL）、松下征文（SL）、松崎宜晃、土井文雄、（友の会）田中紀代美、大窪公三

奥の深谷沢登り

第二回健幸登山教室
沢登り入門　比良山系明王谷

竹下節子

坊村駐車場　8:30 集合

梅雨も明け台風も去り本格的な沢登りの夏が始まりました。

今日は坊村→明王谷→三ノ滝下→登山道→坊村へ戻るルートを遡行、安全健幸登山、沢登りの心得、現場対応能力や技術を学びます。

初めに松下講師CLより沢登りの心得を拝聴します。

①山岳保険に加入すること。
　自らの怪我や事故で後に残された人、他人に迷惑をかけないこと。
②沢登りは一番危険なことをする登山だと心すること。
　滑落、骨折、落石、溺れる。低体温、他
　次に
○安全に健幸登山のため事故を起こさない沢登りの装備と準備。服装、食料は大切。他
○沢の状況に合わせた対処方法。
・ロープを使う場所。
・スリングを使って行く場所。
・対岸へ渡渉する時のロープの張り方。
・カラビナの使い方、ロープの結び方。など、実際の予備知識として教わります。
　そして、実践、
○ハーネスの装着方法、スリングとカラビナの装着など命の危険と安全のポイントを学びます。

参加者の皆様は殆どが山登りはするけど沢登りは初めての方が多く事前講習が実のあるものになったようです。それから皆様の装備が安全に整い入渓です。

事前に教わったことを沢の途中で、今は？安全？を度々チェックすることを心得として行動に繋げられたように思います。

今日の明王谷は想定外の水量です。難なく行けそうな箇所もグレードがアップしています。いつもは気持ちの良いゴルジュ帯も足をとられ体が水流で剥がされそうになります。いつものへつりも激流に負けそうです。まさしく実地訓練さながらの講習会です。違う表情の明王谷に それでも挑戦すべく参加者の方たちは果敢に臨まれました。事前に頭で理解したことを現場で体現されたのではないでしょうか？皆様無事に下山されました。

目的地の三ノ滝まではタイムリミットで行けませんでした。二ノ滝まで遡行して元来た道を途中、登山道に乗りかえ坊村へ帰りました。終礼での歓喜の声が耳から離れません。沢山のことを教わりました。楽しかった。また行きたい。など、普段の山行とは違う緊張感を克服されたのですね。満足の声が次のステップと繋がりそうです。すでに次の講習会に確約されてお帰りになった方もいらっしゃいます。山はルール道理、自然のルールに従順にレベルアップすることで安全健幸登山の山域が広がることを実感した登山教室でした。

皆様お疲れ様でした。

実施日：2019 年 7 月 28 日（日）
参加者：講師：松下征文（CL）、土井文雄（SL）、竹下節子（SL）、（友の会）土井ゆかり
（一般）志津慶明、木村絵美、工藤史子、尾形利香、野崎貴子、望月洋志

巨木探訪

兵庫県丹波市方面
（自然保護委員会４月例会）

岡田茂久

天候は今一つで小雨交じりであったが、いつも通り四条大宮に集合し国道９号線を老いの坂を越え、亀岡市内の通過時間節約に篠ICから千代川ICを経て篠山市に入る。篠山市内を通過し国道176号線を柏原方面へと抜ける。

まず篠山市の外れ大山宮の「追手神社　千年モミ」に立ち寄る。

環境庁の調査で日本一のモミとされた巨樹で、幹回り7.2m　樹高40m、推定樹齢400年、国の天然記念物である。倒壊防止のため近年に太い鉄パイプで補強され興趣が削がれたが、広い境内にまっすぐに堂々と天空に伸びている「千年モミ」は圧巻である。

このモミの巨樹の幹には樹皮が、反時計方向へのねじれがみられるのが特徴という。境内には夫婦イチョウやエゾエノキの大木もあり、山野草の群落があちこちに見られ美しく境内を彩っている。追手神社の祭神は大山祇命（おおやまづみのみこと）で、盗まれた鐘を追ってこの地まで来たが、陽が落ちてしまい仕方なくここに鎮座したので「追手神社」となったとの伝説が残されている。ちなみに近辺の国道の峠は「鐘ヶ坂」と言う。

国道176号線の鐘ヶ坂トンネルを抜け柏原（かいばら）町に入る。柏原は織田信長の弟・織田信包（のぶかね）が作った城下町。明治の版籍奉還まで織田氏の城下町として栄えた。町の中心部、旧町役場の前に「柏原の大ケヤキ」がある。旧町役場横の奥村川をまたいで伸びた「木の根橋」で有名な巨樹で、この大ケヤキの樹勢回復治療がきっかけとなり、1988年「巨木を語ろう全国フォーラム」の第１回大会がこの旧柏原町で開催された。巨木保護運動の原点となった大ケヤキで、小川を越して対岸まで伸びた「木の根」、その姿には畏敬の念を感じざるを得ない。

次いで同じ柏原町の新井神社を訪ねる。境内は苔で覆われ、茅葺きの本殿は県指定重要文化財で、本殿の苔むした屋根が雨上がりに美くしい。江戸中期に近江日吉大社山王権現が分霊され祀られたという。山王の使者が猿ということから、狛犬ならぬ阿吽の一対の猿の木彫は見事で、中井権治という柏原の名工の作である。お目当ては境内の三本に分岐した杉の巨樹で、「根元を跨いで子授けをお願いすると聞き入れられる」といういわれがあり、スギの主幹分岐部に上れる梯子がかけられている。当方だけが跨いできたが子授けは願わなかったので大丈夫だろう。

次に同じく柏原町の北山稲荷神社の「モミ」を訪ねる。当神社の「モミ」は樹高40mといわれ、神社正面の石段脇に聳えており遠くからも良く見えるが、当神社は「モミ」の大木より、地元の丹波佐吉という名工の作の「狐像」が有名らしい。金網に覆われた屋形にそれぞれ一対の狐像が鎮座していた。風雨にさらされ摩耗はしているが、今なお眼光鋭い風貌の名残は残している。

最後に氷上町谷村の妙躰寺「椋の巨木」を訪ねるべく近辺を走り回ったが寺が見つからず、国道483号線の自動車専用国道を氷上ICから春日ICに抜け、春日の道の駅「丹波おばあちゃんの里」で遅い昼食を摂り、篠山ICを経て最後に篠山市の「春日江のカヤ」幹回り

丹波市柏原　木の根橋　千年ケヤキ
幹回り6m　樹高22m　根伸長約10m
推定樹齢1000年

丹波市柏原　新井神社　三本杉
幹回り8.8m　樹高40m
推定樹齢400年

5m　樹高 20m を訪ね帰京した。

実施日：2019 年 4 月 25 日（木）
参加者：仕名野完治、八木昭二、山村孝夫、柏木俊二、
　　方山宗子、岡田茂久

巨木探訪

兵庫県兎和野高原
（自然保護委員会 5 月例会）

仕名野完治

今日は、兎和野高原へ向って走る。いつもお世話になっている山村車（VOXY）に 5 名の常連が乗ってデカンショ街道を走り一路「福住」へ、ここには「安田の大杉」と言われる巨木（幹周り 8.4m、高さ 33m）がドカンと腰を据えている。ここのコンビニで用を足し、いつも通い慣れた篠山を越えて北近畿豊岡自動車道に乗る。

八鹿氷ノ山 IC を出て前回通ったハチ高原に向う。ここのスキー場の上には巨大なカツラの木があり前回の探訪で見学済であり、今回はこの先のハチ北スキー場のまだ先の豪雪地帯である兎和野高原にある「たじま高原植物園」内にある小さな谷川をまたぐ「和池のカツラ」（幹周り 16m）が今回のメーンの探訪であった。滔滔と流れる水流をまたいで聳えるカツラの大木は、千年以上もこの高原の湿地を見下ろして生育し、幾多の自然の困難をも乗り越えて生き長らえてきたことに畏敬を感ぜずにはいられなかった。

帰途、山村リーダーの配慮で「猿尾滝」へ滝の見学に行く、この地域には度々来ているがこの滝があることは全く知らなかった。なかなか見事な滝で見応えがあり水路はツルツルの滑らかな岩で覆われ珍しかった。

次に寄ったのは、関ノ宮にある「関神社」である。境内には珍しい「シダレカヤ」と「エノキ」の大木があったが「シダレカヤ」は斜めに立って支えが必要と思われた。2 本あったエノキの 1 本はすでに伐採したと地元の長老が話していたが大きな木は、大事に守って欲しいものだと思った。巨木や大木を守りしていくことは、地元にとって大変なことであることを知った。

実施日：2019 年 5 月 29 日（水）晴 15℃
参加者：山村孝夫、岡田茂久、中川　寛、方山宗子、
　　柏木俊二、仕名野完治

谷川を跨ぐ大カツラ

巨木探訪

彦根、多賀
（自然保護委員会 6 月例会）

岡田茂久

滋賀県湖東の彦根、多賀方面の巨木観察である。四条大宮を 8:30 出発、近畿地方は 6 月下旬というのに未だ梅雨入りせず、上々の天候である。名神を京都東 IC から彦根 IC へ。

最初の訪問地「多賀大社の元宮」彦根市栗栖の調宮（ととのみや）神社に着く。目指すは樹高 42m、幹周 5.2m、樹齢 300 年以上という大杉。しかし、境内をいくら探索しても大杉の姿は見つからず、作業中の村人に尋ねると大杉は先年の台風で倒れ、鳥居も倒壊したと、近くの草叢に隠れた直径 2m 足らずの切株を指さす。鳥居も新しく建て替えられていた。この辺り杉坂等の地名があり、近辺の杉の巨木の存在を訊ねたが、代わりに紹介されたのが、向之倉集落の井戸神社にある「かつら」。

向之倉集落は霊仙山を源流とする芹川を遡上し、芹川（左岸）対岸の標高 350m に位置する廃村である。芹川流域には類する廃村がいくつも存在する。向之倉集落へ登る道路はしっかりしており、終点近くなると

向之倉集落 井戸神社の「カツラ」

落合神社の「ケヤキ」

道路の上部に廃屋が見える。駐車場も完備され井戸神社への参道も舗装がしてあり、訪問者はかなり多い様で、神社もきれいに整備されている。カツラの大木は樹高 39m、幹囲 11.6m、推定樹齢 400 年と説明板にある。

次いで、芹川上流で大洞谷終点の落合集落、霊仙山登山口の落合神社に大ケヤキを訪ねる。落合も限界集落で人の気配はするものの、神社の整備も手が回らないのか、石段も崩れており荒れた感じである。「ケヤキ」の大木は古びた社殿に寄り添うように立っていた。巨木の説明板も無く、環境庁のデータブックでは、樹高 30m、幹囲 7.4m、推定樹齢 400 年とある。

時間は 11:00、せっかくだからと「河内の風穴」に立ち寄る。入場料 500 円。久しぶりである。入口までの急坂には安全対策として、立派な鉄製の階段通路が整備されていた。梅雨時期の湿った体に洞窟の涼風が気持ち良い。

芹川筋から国道 307 号の合流点、久徳で「市杵島姫神社」に寄り道、久徳城という戦国期の城跡でもある。昼食は多賀大社前の飲み屋さんだったが天丼も定食も美味だった。

午後は多賀大社前から国道 306 号を、梨の木峠、桜峠と越えて、犬上川北谷流域から南谷流域に入り「樋田神社」の大ケヤキ（幹周 5.6m）を訊ねたが、残念ながら切株ばかりが社殿ぎりぎりのところに残っていた。ところがそれより珍しいものが見られた。社殿前の直径 1m 程の銀杏の切株に、リング状に 0.5m 程の高さの無数のひこばえが生育しているのである。数年経過した時の形状はどうなるのであろうか、再訪したいものである。

犬上川流域の県道を下ると「大滝神社」。上流に犬神ダムが出来るまでは、社殿前の犬上川には大きな滝があったというが、今は「木曽の寝覚めの床」を思わす「大蛇ヶ淵」が見どころ、巨木は大杉、樹高は 28m、幹囲 5.2m、推定樹齢 300 年以上という。「大滝神社」を出て名神高速のガードを潜り北上し、キリンビール滋賀工場近く、田園に塚状に植わっている多賀大社の「ケヤキ」で女飯盛木、男飯盛木を訪ねて、湖畔道路を経由、琵琶湖大橋を渡り大原周りで帰京した。

実施日：2019 年 6 月 26 日（水）
参加者：山村孝夫、中川　寛、柏木俊二、方山宗子、岡田茂久

女飯盛木「ケヤキ」

男飯盛木「ケヤキ」

第 35 回日本山岳会全国支部懇談会（栃木県奥日光・光徳）報告

伊原哲士

栃木支部の担当で、2019 年の日本山岳会全国支部懇談会（栃木県奥日光・光徳）が開催された。

会場の栃木県奥日光は関西方面から片道約 700km。

車で走行したが、京都・滋賀支部の参加者3人は、夜間走行は厳しい年齢となったので長野に前泊した。5月24日（金）の前泊は長野県湯田中渋温泉郷の角間温泉の高島屋旅館。旅館は古くからの4軒しかない。外湯は3カ所あり、含石膏弱食塩泉で湯量は豊富で宿・外湯ともに源泉掛け流しである。温泉愛好家の幣内副支部長の提案で決めたが、穴場の良い温泉だった。私は地元の長野電鉄の元職員で角間温泉の名前は知っていたが、寡聞にも来ることはなかった。

翌日25日（土）は志賀草津高原ルートを経て奥日光へ向かった。火山性地震の増加の為、高原ルートの草津白根火山付近は通過出来ず、万座に迂回し沼田から奥日光の日光自然博物館の全国支部懇談会会場に向かった。

全国支部懇談会は栃木支部の渡邉雄二支部長の主催者挨拶に始まり、大嶋一生日光市長の「歴史ある日本山岳会の全国支部懇談会に日光にお越し頂き感謝する」との歓迎の挨拶。記念講演は、栃木県立博物館協議会会長の飯野達央氏の「近代登山とアーネスト・サトウ父子の日光への山旅」だった。

懇親会は宿泊会場の日光アストリアホテルへ移動して開催した。関西支部は7名が参加しており、栃木の新本政子さんの別宅に前泊したとのこと。確かに関西方面から奥日光は遠い。京都･滋賀支部の席の前は千葉支部だった。1982年の市川山岳会のミニヤコンガ（7556m）遭難で奇跡の生還を果たした松田宏也さんが千葉支部の支部長として座っていた。一つの偉大な登山史の体験者が眼の前に居る。松下支部長共々、感動を覚えた。松田さんは遭難時の凍傷で両手両足の指を全て失った。懇親会では拇指と掌の間で箸を挟み、両掌で椀やコップを使い快活に食事をされていた姿が印象的だった。

小林政志会長と重廣恒夫副会長はこの6月の総会で退任されるとのこと。重廣副会長は乾杯の挨拶で、日本山岳会創立120周年の企画で多くの会員が参加できる「グレートヒマラヤトラバース」のトレッキングをおこない出来れば未踏の6000mでも登頂できれば、と語っていた。

次回2020年5月の支部懇談会は宮崎支部で開催。2021年は東海支部で予定している。

26日（日）は、京都・滋賀支部の3人は交流登山に参加した。日光湯元から小峠、於呂倶羅山山麓の刈込湖・切込湖・涸沼、山王峠から光徳牧場に帰る約9kmを緩やかに登り下りする歩行するコースだ。交流登山は約100名近くが参加した。2班に分かれて出発した。朝8時30分に登山口を出発、昼1時過ぎには光徳牧場に到着した。日射しは真夏、時折に流れ込む風は涼しい春。

私は2017年の茨城県筑波の支部懇談会は400mしか連続歩行できず交流登山は断念。2018年の北海道の支部懇談会は入院中。今回の栃木県の支部懇談会の交流登山は下りで少し遅れたが、何とか歩き通せて個人的には感慨深いものがある。

光徳牧場から日光アストリアホテルに移動。解散式をおこない、関西方面に沼田から長岡、北陸道経由で帰った。

帰途は「口から先に生まれた」と言われる幣内さんの車内で寝ている時以外は、独演会。長い道のりを飽きさせなかった。「あの双耳峰が谷川岳本峰。赤いあの山が赤城山。軍艦のように見えるのが苗場山」等々。そしてそれぞれに詳細な解説付き。「上越･中越･下越って、東からではなく西からなのは何故だ。逆やろ」と車の中で突然に叫ぶ。インターネットで調べさせられた。「都が京に在った頃の名残です。都の方向から見て上越・中越・下越です」と言うと、「そうか、忘れるから今回の支部報告に書いといて」とのこと。「？…」。話しは多分野にわたり尽きなかった。

実施日：2019年5月25日（土）～26日（日）
参加者：伊原哲士、幣内規男、松下征文（全体163名）

日本山岳会自然保護全国集会（2019年埼玉）報告

伊原哲士

2019年（令和元年）7月6日（土）～7日（日）に日本山岳会自然保護全国集会が開催されました。日本山岳会自然保護委員会と埼玉支部の共催で、さいたま市新都心にある埼玉県男女共同参画推進センターが会場でした。全国からは47名が参加です。今回のメインテーマは「生物多様性と自然保護」でした。

今年5月13日の日本山岳会自然保護委員会で自然保護委員長は川口章子さんから千葉支部の谷内剛さんに交代していました。川口さんは実行委員長としての今回は参加です。

講演は江村薫さん（東京農大）の「生物多様性と自然保護」。多くの生物との共生は「ヒトの豊かな文化の根源となる」というお話しでした。

中村直樹さん（名城大学）の「武甲山の希少野生植物について」は「絶滅危惧種の保全」をAPG分類しています。インターネットでも公開されています。「Yリスト APG4」でこの労作は検索して見られます。

分科会は三点でした。第一は「生物多様性と自然保護の関わり」、第二は「絶滅危惧種の保全活動」、第三は「山の自然を守る為に出来ること」で、私は第一分科会に参加しました。考古学の鴨志田準司さん（明治大学）が「日

本列島の狩猟文化通誌」で問題提起講演をおこない、石器時代から縄文・弥生、そして現在の「シカの食害やクマの生存」について論議しました。人の都合だけで多くの生物との共存と排除が決まる、そんな人類の悲しい歴史を変えることができるのか、そんな切ない分科会でした。

各支部の活動報告の概要は以下の通り。

北海道支部→「高山植物盗掘防止」について。

宮城支部→「山岳放射線量の調査」「東日本大震災復興事業にともなう土砂採取等による里山環境の影響」について。

群馬支部→「カッコウソウ（絶滅危惧種ⅠA類）の咲く鳴神山自然観察」について。

埼玉支部→「森づくり、ラオス友好の森、大高取山自然、玉原高原ブナ林などの観察会」「シカ食害調査」について。

東京多摩支部→「奥多摩清掃登山」「御岳山レンゲショウマ、高尾山シモバシラ等の観察会」について。

越後支部→「山の自然に親しむ子ども登山教室」について。

石川支部→「石川県のレッドデーターブック」について。

信濃支部→「ライチョウを絶滅させない為に」について。

静岡支部→「リニア新幹線のトンネル工事がもたらす南アルプスの自然破壊」について。

東海支部→「環境省事業モニタリング1000、里山調査」について。

京都・滋賀支部→「巨木観察会」「森林保全活動」について。

関西支部→「本山寺山の森保全活動」「東お多福山ススキ草原復元活動」「大台ケ原利用協議会」について。

広島支部→「霧ケ谷湿原自然再生地の保全活動」について。

四国支部→「四国山地におけるシカの食害状況調査」について。

自然保護全国集会後の自然観察会は「北本自然観察公園」に行きました。埼玉県の「里地里山」の自然環境の風景を残しつつ、野生の動植物が生息しやすい環境を整え、且つ訪れる人々が自然に親しめ観察できる公園です。

次回は2020年（令和2年）5月頃に日本山岳会自然保護委員会と関西支部の共催で奈良県の長谷寺周辺で開催される予定です。

2019年日本山岳会自然保護全国集会参加支部：本部自然保護委員会、北海道支部、宮城支部、群馬支部、埼玉支部、千葉支部、東京多摩支部、神奈川支部、越後支部、石川支部、東海支部、京都・滋賀支部、関西支部、四国支部

「第8回梅棹忠夫山と探検文学賞」

伊原哲士

2019年6月3日（月）に「第8回梅棹忠夫山と探検文学賞」の授賞式が長野県長野市の信濃毎日新聞長野本社講堂で開催されたので出席した。受賞者は作家で元外務省主任分析官の佐藤優氏。受賞作は『十五の春』（2018年幻冬舎刊）。

『十五の春』は佐藤氏が埼玉県立浦和高校1年生の夏休みに、当時は渡航が珍しかった東欧・ソ連の一人旅の回想録。冷戦下の1975年の夏、共産圏諸国の情報が限られた時代に一人の高校生が旅に出る。様々な人々との出会いと語らい。それらが生き生きと表現されている。佐藤氏は「日本はいい人の比率が高いと言われているが、世界のいい人・普通の人・悪い人の比率は同じだと感じる」と語る。

佐藤氏は同志社大学から外務省に入り、2002年に鈴木宗男元衆議院議員の事件に関連して逮捕、500日あまりも勾留された。その時に、『十五の春』の著作の元になった記憶が鮮明によみがえったという。経緯は佐藤氏の著作『国家の罠－外務省のラスプーチンと呼ばれて－』『獄中記』に詳しい。

有罪判決が確定し外務省を失職（免職ではない）した。「現在の法律では裁判の資料は裁判でしか使用できない。私の無罪を証明する資料は、30年間は公開されないので見ることはできない」と無念を滲ませる。

佐藤氏はノンフィクション作家だ。「ノンフィクションは大木を彫刻し物を作るようなもの。フィクションは粘土細工で物を創るような感じ。ノンフィクションにフィクションが混ざれば、それはノンフィクションではなくなる」と言う。

一つのキーワードから様々な著作の材料が出てくるようだ。「梅棹忠夫山と探検文学賞」に相応しい逸材だと思う。

京都大学学士山岳会からは酒井敏明さんと沖津文雄さんが来られていた。「京大探検部の頃、梅棹さんには大変に世話になった。梅棹さんの墓参りみたいなもので初回から毎年、「梅棹忠夫山と探検文学賞授賞式には来ている」と沖津さんは快活に笑う。

帰路は長野駅まで選考委員の一人である江本嘉伸さんに「タクシーで長野駅まで行くから乗っていけ」と酒井敏明さんと便乗させてもらった。

行事案内

◇山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、郵送または FAX で。
◇「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
◇思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

◎山水会講演の案内

講　　演：今西錦司賞受賞記念講演
近代測量開始150周年「明治初期の測量裏話」
講師　上西勝也

講演内容：近代測量開始 150 年に因み、明治初期の京都の測量といえば、いつも清水寺の標石という、まじめな話になりました。今回は趣向を替え、「愉快な話」として内務省による京都測量時の一般市民との愉快な逸話、活躍した測量官と赤石岳、更には日露戦争日本海戦、日本山岳会につながる、あまり知られていない史実についてのお話しとなります。また「怖ろしい話」は明治初期の清国への地図密売事件に関して、陸軍の測量関係者が連続して謎の死を遂げる奇怪な出来事のお話し。井手孫六（昭和 49 年直木賞受賞作品「アトラス伝説」）で一部が採りあげられています。今回はその裏話です。いずれも当時の公文書、新聞記事に基づく史実によるお話しです。

日　　時：2019 年 10 月 16 日（水）午後 6 時 30 分～ 8 時 30 分

場　　所：京都「鴨沂会館」新館ホール　203 号室・204 号室
京都市上京区荒神口寺町東入ル幸神町
電話：075-231-1001
（市バス 3, 4, 17, 205 系統「荒神口」下車 1 分）

申し込み・問い合わせ：
資料準備の関係で、出来るだけ参加者はお知らせ下さい。
日本山岳会京都・滋賀支部事務局
伊原哲士

◎丹波の山々例会

丹波の山々
八ヶ峰二等三角点 800m

日　　時：2019 年 10 月 26 日（土）
集合場所：地下鉄天神川駅ロータリー
集合時間：午前 8 時 30 分
行　　程：天神川駅⇒ R162 ⇒安掛⇒八原登山口→スキー場跡→知井坂→八ヶ峰 800m（往路下山）
地 形 図：1/25000 図「久坂」
担 当 者：大槻雅弘
申し込み：10 月 20 日（日）までに所定事項記入の上 FAX 又はメールで担当者まで。

◎山歩会例会

芦生の森
紅葉の芦生の森のトロッコ道など散策

日　　時：2019 年 10 月 22 日（火）
集合場所・時間：参加者に連絡
行　　程：芦生の森駐車場→演習林のトロッコ道や林道を散策します。
《体力 1　技術 1》
地 形 図：1/25000 図「中」
担　　当：中川　寛
申　　込：10 月 15 日（火）までに所定事項記入の上 FAX またはメールで担当者まで。

胎金寺山～高山

丹波の山々シリーズの胎金寺山と山麓の立派な摩気神社、豪壮な巨木（口・奥の天狗杉）、そして高山を訪ねて

日　　時：2019 年 11 月 26 日（火）
集合時間・場所：参加者に連絡
行　　程：JR 園部駅⇒宍戸→高山（372m）→宍戸⇒摩気神社→胎金寺山（423m）→奥天狗杉→口天狗杉→摩気神社⇒ JR 園部駅
《体力 2　技術 2》

地 形 図：1/25000 図「園部」「埴生」
担　　当：中川　寛
申　　込：11 月 19 日（火）までに所定事項記入の上 FAX またはメールで担当者まで。

◎平日例会山行

金糞岳～白倉の頭 △ 1270.7m ～花房尾下降

金糞岳から西へ伸びる長大な尾根を、杉野川中流の古橋集落・与志漏神社から　五郎の頭までトレースしてきた。今回はその完結編。

日　　時：2019 年 10 月 24 日（木）
集合場所・時間：参加者に連絡
行　　程：湖西道路⇒ R8 ⇒木之本⇒ R365 ⇒草野川橋⇒高山町⇒東俣川と西俣川の合流点・高山キャンプ場手前に車 1 台駐車⇒（鳥越林道）⇒鳥越峠⇒岐阜県側駐車場→大朝の頭→金糞岳→オオセコ→白倉の頭（Ⅱ深谷 1）→八草分れ→五郎の頭→奥山△ 1057.2m（Ⅲ深谷 2）→滝谷の頭→・587 →高山キャンプ場⇒岐阜県側に駐車場の車回収⇒高山町⇒木之本⇒湖西道路
地 形 図：1/25000 図「近江川合」「虎御前山」
行程距離：約 10km　登り：標高約 480m　下り：標高約 1200m
山行の目安：《体力：3、技術：3》（体力・技術力は各担当の私感）
【注】車が最低 2 台必要の為、車提供、支援をお願いします。
担当者・リーダー：田中昌二郎
申　　込：10 月 16 日（水）までに所定事項記入の葉書、FAX またはメールにて担当者へ

国見岳 1126m ～御座峰△ 1070.0m

日　　時：2019 年 11 月 14 日（木）
集合場所・時間：参加者に連絡
目的の山域・山名：滋賀・岐阜県境尾根上に位置し、両白山地南の秀峰伊吹山の北に連なる国見岳と御座峰（三等三角点　板並）
地 形 図：1/25000 図「美束」「虎御前山」
行　　程：湖西道路⇒ R8 ⇒木之本⇒ R365 ⇒草野川橋⇒上板並⇒足俣川右股国見林道⇒国見峠（駐車）－国見岳 1126m －大禿山 1083m －御座峰△ 14070.0m 往復－国見峠（駐車）⇒国見林道⇒上板並⇒木之本⇒湖西道路
山行の目安：《体力：3、技術：3》
行程距離：約 6.5km、累積標高差±約 600m
担当者・リーダー：田中昌二郎
申　　込：11 月 6 日（水）までに所定事項記入の葉書、FAX またはメールにて担当者へ

◎忘年山行

十三石山△ 495.3m ～鴨川運動公園

日　　時：2019 年 12 月 12 日（木）
目的の山域・山名：京都市北区氷室町に位置する十三石山△ 495.3m
集合場所・時間：参加者に連絡
行　　程：鷹峯→千束→長坂越→京見峠→氷室別れ→城山△ 479.6m（Ⅲ　城山）→氷室神社→氷室集落→満寿峠→十三石山（Ⅲ　十三石山）→満寿峠→小峠→鴨川運動公園（柊野）→上賀茂神社
地 形 図：1/25000 図「京都西北部」「周山」
山行の目安：《体力：3、技術：3》
忘 年 会：鴨川運動公園に於いて（水道、トイレ完備）肴・好みの飲み物・防寒着・敷物・バーナーなど各自準備携行ください。
担当者・リーダー：田中昌二郎
申　　込：12 月 4 日（水）までに所定事項記入の葉書、FAX またはメールにて担当者へ

◎秋のスケッチ

比叡山を描く

日　　時：2019 年 10 月 10 日（木）午前 9 時
集　　合：京都市地下鉄　国際会館駅改札口
前日の天気予報が雨の時は中止します。

◎京都・滋賀支部＆広島支部交流会

広島支部との交流山行です。友の会の皆さんも是非参加してください。無理のないルート設定です。

日　　程：2019 年 11 月 16 日（土）～ 17 日（日）
場　　所：休暇村蒜山公園（宿泊）
会　　費：13000 円＋乗合せ車代
交流登山：上蒜山往復、上蒜山～中蒜山縦走
三平山～朝鍋鷲ケ岳
詳細は参加者へ
担　　当：松下征文

◎健幸登山教室 4

読図と歩き方

日　　時：2019 年 10 月 20 日（日）
場　　所：比良釈迦岳ワンゲル道→北比良峠
参 加 費：友の会 1500 円、一般 2000 円
詳細は参加者へ
担　　当：松下征文

◎第 3 回武奈ヶ岳の日（1214m）

日　　時：2019 年 12 月 14 日（土）
場　　所：比良山系武奈ヶ岳
集　　合：イン谷口駐車場　8:00
解　　散：17:00
装　　備：無雪期日帰り装備、昼食等
担　　当：松下征文
申込締切：11 月 20 日

五支部合同懇親山行（大鷲山）の案内（富山支部担当）

2019 年度の五支部合同懇親山行を下記の要領にて行いますのでご案内申し上げます。北アルプスの北端にある大鷲山は、海抜ゼロメートル、日本海の波打ち際から登る山として人気があります。頂上からは富山平野や富山湾の向こうに能登半島、栂海新道の山々、剱岳などを望むことができ、よほど視界が良ければ佐渡島がみえます。

期　　日：2019（令和元）年 11 月 9 日（土）～ 10（日）
場　　所：大鷲山（817m）1/25000 図「泊」「親不知」、1/50000 図「泊」
宿　　舎：〒 938-0103 富山県下新川郡入善町舟見 1677 － 1　バーデン明日（あけび）
電話：0765-78-2525
北陸自動車道黒部 IC から 10km 15 分
日　　程：
11 月 9 日（土）
受付　15:00 ～　宿舎玄関ホール
講演会　16:00 ～ 17:30
講　　師：阿曽原温泉小屋　佐々木泉氏
演　　題：黒部は生きている
佐々木氏は、阿曽原温泉小屋を「日本一危険な温泉」と称して登山者に警鐘を鳴らすとともに、遭難救助や黒部下の廊下の水平歩道の維持管理などで安全登山に貢献されています。山小屋経営の苦労や喜び、昨今の登山や遭難にまつわる自らの体験など、立山黒部に対する熱い想いを語ります。
夕食懇親会　18:30 ～

11 月 10 日（日）
朝食　7:00 ～
宿舎出発　8:00（各自車で登山口へ）
A コース登山口まで 20 分、B コース登山口まで 30 分）
A コース：富山・新潟県境の海岸にある登山口から往復　約 6 時間
B コース：A コースの標高 500m 地点まで林道で行き、往復　約 3 時間

会　　費：15,000 円（1 泊 2 食 : 行動日の昼食含む）
＊注（行動日の非常食･飲料は、各自ご用意ください。）
会費は当日受付時にお願いします。
申　　込：
※参加ご希望の方は（氏名・年齢・住所・緊急連絡先・携帯電話・希望コース）を下記までお願いします。
宿泊予約の連絡の為、9 月 30 日（月）までにお申し込み下さい。よろしくお願いします。
申 込 先：日本山岳会京都・滋賀支部事務局
伊原哲士

═ あとがき ═

化石燃料の使用による地球温暖化の為か地球上各地で異常気象が報告されている。日本では梅雨入りが近畿では 7 月に入り、関東では近畿より早く梅雨になり日照時間の少なさで農業被害が予想されている。梅雨明け 7 月末で、また高温が続き記録的豪雨、50 年に一度の豪雨が頻発している。被害を受けられた方にお見舞い申し上げます。生活の場はもちろん､山･自然を活動域とする「山や」は大きな影響を受け、活動に万全を期さねばならない。自然がこれ以上壊されないことを祈るばかりである。

会務報告　支部役員会

第 400 回支部役員会

2019 年 5 月 8 日（水）18:30 ～ 20:00
（於）鴨沂会館　出席：15 名　欠席：12 名

「報　　告」

4 月に実施された未知の山旅・四国「仁淀川源流」、丹波の山々・明智越え、平日例会山行・横谷峠～行者山、丹波の山々・牛松山、支部総会、北小松人工壁講習会Ⅱ、巨木観察･兵庫県水上方面、山歩会例会･竜王山～忍頂寺～隠れキリシタンの里を巡る、シャクナゲ山行、支部登山教室Ⅰについて報告。

支部長・事務局長報告

国立登山研修所主催の安全登山サテライトセミナーが大津市で開催されること、会計関係の連絡事項等が報告された。

「計　　画」

5 月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

2019 年度「山の日」関連行事について協議した。

第 401 回支部役員会

2019 年 6 月 5 日（水）18:30 ～ 20:00
（於）鴨沂会館　出席：17 名　欠席：10 名

「報　　告」

5 月に実施された今西錦司レリーフの集い、丹波の山々･美女山､平日例会山行･釈迦ヶ岳､丹波の山々･長老ヶ岳、テント泊登山･荒島岳、巨木観察･氷ノ山、ダンダ坊整備と懇親会について報告。

支部長・事務局長報告

JAC 総会、全国支部懇談会、比良・比叡トレイル、北山での 2 件の遭難事故等について報告。

「計　　画」

6 月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

2019 年度「山の日」関連行事について協議した。

第 402 回支部役員会

2019 年 7 月 3 日（水）18:30 ～ 20:00
（於）鴨沂会館　出席：14 名　欠席：13 名

「報　　告」

6 月に実施された人工壁講習会 2、山歩会例会・笹間ヶ岳、巨木観察・彦根方面について報告。

支部長・事務局長報告

JAC120 周年記念事業（グレートヒマラヤトレイル実施、JAC 総会・会長人事、高村奉樹会員逝去について報告。

「計　　画」

7 月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

「山の日」ファミリー登山、支部会員名簿について協議。

次号 137 号　予告

2019 年 12 月 15 日発行　原稿締切 10 月 31 日（木）
原稿送付先　編集担当　幣内規男

日本山岳会京都･滋賀支部会報「支部だより136号」

発行所　〒525-0072 草津市笠山3-6-6
松下征文方
日本山岳会京都・滋賀支部
発行者　松　下　征　文
編集者　山　田　和　男
印　刷　〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8
（株）土倉事務所
TEL 075-451-4844　FAX 075-441-0436

FLYING OVER THE HIMALAYA —Peak Identification—

空撮ヒマラヤ越え 山座同定

中村 保 著 Tamotsu Nakamura

ヒマラヤ越えの飛行は素晴らしい。四川の成都からラサへ、青海省の玉樹へ、カトマンズからポカラへ、ラサから、西チベットの阿里へ、次々に現れる高峰に圧倒され魅了され、脳裏に焼きつくすでしょう。

私自身、そして友人が十数年に亘りこれらのルートを何度となく飛びました。その経験の集大成としてヒマラヤ越え空撮写真集編纂のプロジェクトに取り組みました。〔まえがきより〕

Tamotsu Nakamura

圧倒的にせまる
ヒマラヤ——
その最高峰から
未登の山群まで、
未知の大地に迫る
画期的な空撮写真集

●オールカラー●Part ごとに地図あり

菊倍判（304×218mm）／234 頁／上製／カバー装／定価 8,000円

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 http://www.nakanishiya.co.jp/

電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

表示は本体価格です。

おかげさまで操業50周年！【山旅専門の旅行会社】アルパインツアーからのご案内

四輪駆動車で行く憧れの王都ローマンタン探訪とジョムソン高級ホテル 10日間

出発日～帰国日	旅行代金（大阪発着）
11/22（金）～12/1（日）	￥566,000

ネパールの秘境、旧ムスタン王国は、外国人の入域を禁じたことにより、「チベットよりもチベットらしい」文化が保持されてきました。このコースでは旧ムスタン王国の都ローマンタンを訪れます。

▲カグベニからのニルギリ北峰（7,061m）

▲カグベニ村からのヤカワカン（左6,482m）

《奥田 仁一さん同行・年末年始特別企画》キリマンジャロゆったり登頂と2つのサファリ 11日間

出発日～帰国日	旅行代金（東京発着）
12/27（金）～1/6（月）	￥678,000

年末年始を利用し、アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ(5,895m)の山頂を目指します。エベレストを始め世界の高峰の登頂歴を持つ奥田仁一さんが同行する特別企画です。

▲アフリカ大陸最高点・ウフルピーク(5,895m)

▲砂れき帯をゆっくりと歩き山頂を目指す

観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪 〒550-0003 0120-938-290
大阪市西区京町堀1-4-3（TCF肥後橋ビル2階）